

山形・堂の前遺跡

1 所在地 山形県飽海郡八幡町法連寺

2 調査期間 一九七八年(昭53)八月～九月：第六次調査

3 発掘機関 山形県教育委員会

4 調査担当者 佐藤庄一

5 遺跡の種類 不明

6 遺跡の年代 平安時代後半

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

堂の前遺跡については、一九七四年(昭和49)以来、八次にわたる発掘調査が行われてきたが、遺跡の範囲、性格など詳しいことは未だ判明していない。

木簡は第六次調査で三点出土している。三点の木簡はSX3の大溝から出土した。SX3は自然の河川とも思われるが、一部人工も加えられており、性格はよく分かっていない。溝内からは、須恵器、黒色土器、赤色土器などが伴出しており、これらの遺物からおおよそ平安時代と考えられる。

8 木簡の釈文・内容

三点の木簡には、いずれも

山口縄急々如律令

の八字が縦書きされており、筆跡も全て同一人物の手になるものと

思われる。二・三字

目の口と縄は戸と縄

の合わせ文字のように

にみえるが、二文字

で蛇を意味する。形

は、上端を山形に削

ぎ、下端も鋭く尖ら

せていて、三点とも

ほぼ相似形を呈して

いるが、長さは一定

しておらず、最大で

現存長五一cm、最小

9 関係文献

山形県教育 「堂の前遺跡六・七次発掘調査説明資

委員会 料」

一九七八年
(尾形典典)

